

安全報告

企業ステートメント

クラレグループ行動規範

コンプライアンス・
ハンドブック

トップステートメント

サステナビリティ・
マネジメント

安全報告

保安防災・労働安全・
物流安全

環境報告

社会性報告

コーポレート・
ガバナンスGRIスタンダード対照表
(内容索引)クラレレポート（統合報
告書）/ サステナビリテ
ィウェブサイト

ランドセルは海を越えて

保安防災・労働安全・物流安全

安全に関する考え方

クラレグループの事業活動において、「安全」はすべての礎となる絶対条件です。「安心して働ける会社、事故や災害が起こらない安全な会社」の実現は、製品の安定供給を維持するためにも、社会から信頼され続けるためにも必要な重要テーマと言えます。

そうした考えのもと、クラレグループは安全のマネジメントシステムを構築・運用し、様々な活動を行っています。社員の安全意識を高め、安全行動・確認が仕事をする上での「当たり前」のこととして定着させるために、さまざまな取り組みを推進しています。

各現場では、リスクアセスメント活動を通して保安防災・労働安全リスクを発見し、設備の本質的な安全対策を進め、その発生防止を図っています。また万が一、事故・災害が発生した場合に備え、被害を最小限に抑えるための訓練や事故の事例、教訓などの情報共有化や対策の水平展開などにより再発防止に努めています。

安全に関する行動原則

『安全はすべての礎』

安全に関する行動方針（2020年度）

1. 「安全第一、生産（工事、開発）第二」を徹底すること
2. 行動前の「危険予知」と行動前後の「確認」を徹底すること
3. 全ての社員が「安全」に対して積極的に行動すること

安全活動マネジメント

「安全活動マネジメント規定」に基づき、年度ごとに計画を立て、保安防災・労働安全に取り組んでいます。具体的には、社長および担当役員が出席する安全推進会議で、当年度の安全活動実績の総括評価と次年度の活動方針策定を行い、その方針を各事業所・部署の活動計画に反映させ、実行しています。計画立案と活動の状況、成果については、国内グループの各事業所・工場の現場には安全担当役員を含む本社安全スタッフが年2回訪問して検証を行い、海外グループには、



安全活動の検証の様子（鶴海事業所）

3年に1回を目途に本社スタッフが現地を訪問して確認を行っています。現場での検証から得られた課題やその年の安全成績などをもとに実績の総括評価を行い、翌年の全社の方針策定に反映させて安全活動のマネジメントシステムを動かしています。



安全活動の検証の様子（鹿島事業所）

保安防災・労働安全の安全重点活動

評価 ○：達成 △：さらに取り組みが必要 ×：未達

	2019年度			2020年度活動項目
	目標	実績	評価	
保安防災 労働安全	個人の不用意・無意識行動に起因する労働災害の防止	現場での「気づき」を拾い上げて、共有する取り組みにより、個人の意識を高め、不用意・無意識行動に起因する行動型災害低減を目指したが、依然として多くの行動型災害が発生した。	△	・現場の安全確保のための、危険予知「KY」の徹底 ・現場の「気づき」、「違和感」の発見とその活用 ・「新人教育」の内容の見直し、充実化 ・保安防災上の潜在リスク発掘と顕在リスクの極小化対策実施 ・グローバル管理体制の確実な運用
	能動的な安全活動への転換	組織全員に取り組みの目的を正しく理解させ、意見・提案にフィードバックを適切に返すことを継続して実施し、能動的な活動への転換を図りつつある。	○	
	現場の「違和感」の発見による職場（設備、作業）改善の推進	5 S 活動を通じて「違和感」を発見しやすい職場環境を作り、現場パトロール等での工夫も図りつつ、職場の改善を進めている。	○	
	確認の徹底による事故・トラブルの防止	具体的な確認事項を手順書やチェックシートに取り入れたり、守りにくいルールを見直す取り組みなどを進めているが、確認不足による事故・トラブル等がまだ発生している。特に、新人に対する作業指示方法や作業状況確認の見直しが必要である。	△	
	保安防災上の潜在リスクの発掘と顕在リスクの極小化対策の実施	非定常作業・状態へ想定を広げる取り組みなどにより、リスクの発掘を図るとともに、過去に実施した対策の維持状況、効果の確認を進めた。一方、海外プラントで爆発を伴う火災事故が昨年に引き続き発生したことを受け、緊急の安全監査を開始した。	△	
	グローバル管理体制の確実な運用	構築したマネジメントシステムに基づき、海外拠点の訪問やグローバルミーティングの開催を通じて安全情報の共有、活動状況の確認を進めた。また、化学プラントに対する緊急の安全監査を開始した。	△	

保安防災・労働安全の数値目標と実績

	2019年			2020年	
	目標	評価基準	実績	目標	評価基準
保安 防災	無事故	保安事故0件	10件	無事故	保安事故0件
労働 安全	無災害	A、Bランク災害 0件※1	5件（6名）	無災害	A、Bランク災害 0件※1
		全労働災害度数 率1.5以下※2	3.20		全労働災害度数 率1.5以下※2

※1 A、Bランク災害：当社独自の指標による労働災害評価ランクで、労働災害の深刻度を潜在的な障害程度と災害発生要因の不具合の度合いによりA、B、C、Dの4つにランク付けしている。A、Bランク災害は深刻な災害に位置づけられる。

※2 全労働災害度数率：医療処置を要する労働災害の労働時間百万時間当りの発生件数を表す。

保安防災

クラレグループでは、社会に対して甚大な影響を与える爆発、火災、有害物質の漏洩などの事故の未然防止を図ること、そして万が一事故が発生した際の被害を極小化することを重要な責任と考えています。そのため、保安防災に関するリスクアセスメントに継続的に取り組み、建築物・プラントの地震対策や津波対策、設備の保安管理システムの整備などの保安防災活動を推進しています。

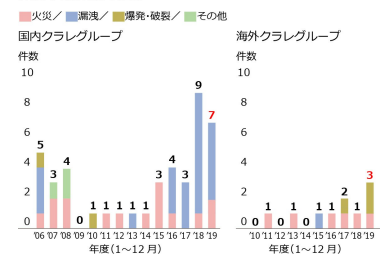
特に、近年発生した他社の事故を契機として、運転立上げや停止、停電、断水、緊急停止といった非定常時のリスクアセスメントに注力しています。更に一歩踏み込み、安全装置が故障した場合、ルールが守られない場合なども対象として、様々なリスクを抽出し、その対応策の検討を進めています。

合わせて、異常の兆候検知のための危険感受性向上の教育や異常の判断基準の明確化にも取り組み、異常に対して迅速に対応し、事故に至る前に対処できる工夫や人材の育成に取り組んでいます。

また、万が一に備え、夜間休日、職場長の不在などを想定した訓練、無警告での訓練、外部の施設を利用した訓練、地域消防との共同訓練など、緊急時に対する様々な現場訓練を定期的実施しています。外部機関による安全基盤と安全文化の評価にも取り組んでおり、より強化すべきポイントを把握してPDCAを回すことで、事故や災害の起こらない安全な会社をめざしていきます。

重大な事故が発生した場合には、社長をトップとする緊急対策本部を設け、速やかな対処・現場への支援ができる体制も整えています。2019年度は、事業所で死傷者を伴う火災が発生した事態を想定して全社の緊急対策本部訓練を行いました。

保安事故件数の推移



た。事故の際、地域・マスコミに適切な情報を提供できるよう、対外的な広報の場に立つ主要管理者を対象にメディアトレーニングも行なっています。

残念ながら2019年度は、グループ全体の保安事故件数が合計10件となり、目標未達となりました。国内グループの事故については危険物の微少漏洩が5件と設備の小火災が2件の計7件発生しましたが、大きな災害に繋がるものはありませんでした。しかしながら海外グループで発生した事故3件のうち2件については小規模ながら爆発を伴うものでした。前年に続き爆発を伴う事故を発生させたことから、海外化学プラントに対して緊急の安全監査を開始しました。これらの事故の再発防止を徹底して図るとともに、監査によって明らかになった課題への対応を進め、保安管理レベルの向上を図ります。

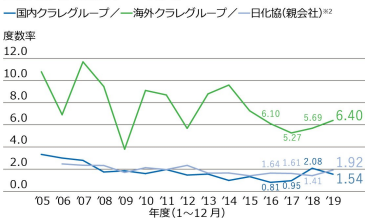
労働安全

クラレグループでは、社員の安全と健康の確保こそが企業活動の基本と認識し、労働安全マネジメントシステムの適切な運用を通じて、組織および社員一人ひとりの安全レベルの向上に努め、安全で災害のない職場を目指しています。安全に関する行動原則、行動方針をはじめとする全社の方針や活動項目などを基にして、各事業所・部署の特徴に合わせた方針・計画を立て、これに沿って部署毎に工夫を凝らして活動しています。安全活動の状況やその課題について、国内の各事業所・工場等で毎月開催される安全衛生委員会の中で労使一体となって討議し、「安心して働ける会社、事故や災害が起こらない安全な会社」の実現に向けて取り組んでいます。

リスクアセスメント活動や設備の本質的な安全対策を通して、設備の不備による災害を減らす活動が進み、重篤な労働災害は減少してきました。しかし、個人の不用意や無意識の行動に起因する労働災害はまだ多く発生しています。このような災害を無くすため危険への感度を高める教育を推進しています。

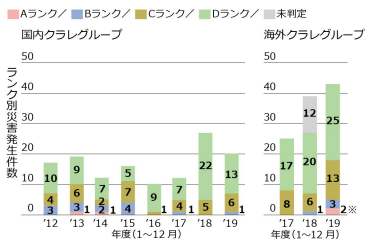
2019年度は、全労働災害度数率がグループ全体では3.20（国内グループで1.54、海外グループで6.40）となり、目標（グループ全体で1.50以下）に対して大きく未達となりました。当社では、労災の深刻度をA～Dで評価する独自の指標を導入しており、より深刻な労災にあたるA及びBランクの労災の件数で目標（A、Bランク災害ゼロ）を設定しています。そのA、Bランク災害件数は、グループ全体では合計5件（6名）（国内グループはBランク災害が1件、海外グループではAランク災害が1件（爆発を伴う火災事故により、2名が被災〔災害カウント上は2件とカウント〕）、Bランク災害が3件）発生し、目標未達となりました。5件のうち3件は回転体への巻込まれによるものでした。このような大きな災害のゼロ化を目指し、設備、管理面での強化を図ります。また、昨年同様、転倒などの個人の不用意・無意識な行動による労災が多く発生しており、このような「行動型災害」の低減にも

全労働災害度数率^{※1}の推移



※1 医療処置を要する労働災害の労働時間百万時間当たりの発生件数
※2 日本化学工業協会(日化協)データ。出典:労働安全実態調査

労働災害評価ランクに基づく労働災害件数の推移



※ 1件の保安事故で同時に2名被災したものを。
労働災害による従業員死亡者数

バウンダリー					
国内:クラレ本体、関係会社					
海外:関係会社工場					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
国内	0	0	0	0	0
海外	0	0	0	0	0

●国内グループでは2005年12月の死亡災害以降、死亡災害は発生していません。
●海外では、記録の残る2002年度以降、死亡災害は報告されていません。

労働災害による死亡者数(業務委託先)

バウンダリー					
国内:協力会社・当社事業所等の保安作業、及び工事を行う保全協力会社、工事業者で、当社事業所等内で作業する作業員					
海外:同上					
	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
国内	0	0	0	0	0
海外	0	0	0	0	0

●国内では、1992年3月の死亡災害以降、協力会社での死亡災害は発生していません。
●海外では、過去に協力会社の死亡災害は報告されていません

引き続き取り組んでいます。経験の浅い作業者の労災も多く、「新人教育」の見直し、充実化を図ります。これらの課題に対する取り組みを確実に進め、今後も安全で災害のない職場を目指して取り組んでいきます。

新規事業、設備投資案件等におけるリスク評価

クラレグループでは、国内外の新規プロジェクトや設備投資について、「技術評価委員会」「技術検討会」「安全・環境審査」でプロセスの安全や労働安全衛生に係る事前の調査やリスクアセスメントを実施し、安全対策・環境対策が十分に検討されているか、を確認したうえで次ステップに進む体制を構築し運用しています。また、原材料や設備、運転条件、組織の変更、組織の変更に伴う人の異動（責任者、管理者、担当者等）などが生じた場合には「変更管理」の一環としてリスクアセスメントを行い、必要な対応をとった上で変更を実施しています。これらの取組を確実に運用することで新規事業、設備を導入する際の安全確保を図っています。

労働災害評価

労働災害の分類の指標として、一般的には実際の傷害の程度による分類（死亡災害、休業災害、不休業災害など）が用いられています。その中でも休業災害を基にした度数率が組織の安全レベルの評価や組織の安全の目標としてよく用いられます。しかし、この評価方法では、以下のような点から実際の安全レベルと乖離する場合がありますのが実状です。

- ①傷害の程度は「偶然」に左右されやすい。
- ②災害の発生要因が考慮されない。
- ③（グローバルな管理に使用する場合）国柄により傷害程度の判断が異なる。

そこで、当社独自の指標として、「偶然」の要素を除き、発生要因の評価を加えた新しい労働災害評価ランクを設定しました。実際に起きた傷害程度ではなく、労災が発生した事象に対して、それにより潜在的に起こり得た傷害程度を数値化しています。更に、災害発生要因の不具合の度合いを、人的、設備的、管理的要因に分けて点数化し、潜在的な傷害程度に加えることにより、A、B、C、Dの4段階にランク付けしています。その結果、深刻と判断されるAランクとBランクの労働災害の発生件数を、その組織の安全レベルを評価する指標として利用可能になりました。

海外化学プラントに対する安全監査

ここ近年、海外グループ会社の化学プラントにおいて爆発を伴う火災事故が連続して発生していることを受け、海外グループの安全と安定操業を確実なものとするため、今まで出来ていたことが出来なくなっていないか、管理項目に抜けや不足が無いのか、長年にわたる安定操業が安全に対する過信・慢心に繋がっていないかの観点も踏まえ、海外化学プラントに対する安全監査を開始しました。監査の結果、安全確保に重要な変更管理や特定作業の許可・承認の運用、非定常時（運転の停開始時）の危険源の特定などにいくつか課題が見出されました。これらの課題に対し、国内グループからの支援も強化しつつ、各プラントに応じた保安管理システムの構築、改善を図って行きます。

物流安全

クラレは物流事故による社会的被害を防止するため、製品の輸送、保管面での物流安全確保の活動を継続して実施しています。

この活動の中心となるクラレ物流安全協議会は19年目を迎え、2019年度は岡山事業所にて危険物の輸送会社8社を招集して開催しました。事業所の安全活動や事故事例とその対策を協議し、重大事故防止の施策を共有しました。引き続き重大事故発生ゼロを目標に、社内外関係各所と連携しながら、物流安全の維持・向上に努めます。

企業情報

会社概要
ごあいさつ
企業ステートメント
役員
組織図
沿革
主な受賞歴
主要グループ拠点
会社案内動画
テレビ番組動画
広告ギャラリー

製品情報

事業から探す
製品名から探す
キーワードから探す
製品の はてな

研究開発

基本方針
技術と製品
組織・体制
歴史
トピックス

サステナビリティ

企業ステートメント
クラレグループ行動規範
クラレグループ人権方針
トップステートメント
サステナビリティ長期ビジョン・サステナビリティ中期計画
クラレグループのマテリアリティ
Planet
Product
People
ガバナンス
GRIスタンダード対照表（内容索引）
クラレレポート（統合報告書）/ サステナビリティウェブサイト
ランドセルは海を越えて
イニシアティブ

投資家情報

経営方針
IRニュース
クラレって？
業績・財務情報
IRライブラリー
株式情報
IRカレンダー
よくあるご質問